

## 【構想の名称】(タイプB-I)

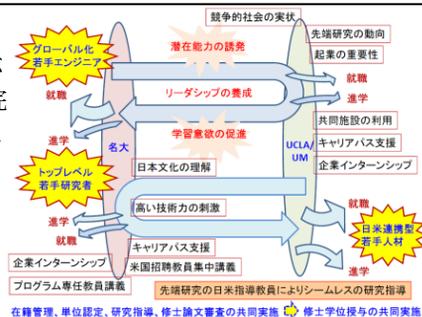
### 修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

#### 【構想の概要】

本プログラムは、修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、ミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施することにより、2ヶ月間の短期コース、6ヶ月間の中期コース、12ヶ月間の長期コース及び定期ワークショップを日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを新たに構築するとともに、毎年40~50名の大学院修士課程の学生を相互派遣する。さらに、本プログラムの実施を通して、新たな学びスタイルを確立するとともに国際共同大学院の創成基礎を構築し、我が国の大学教育活動の発展および国際競争力の強化に大いに貢献する。

#### ■ プログラムの目的・養成する人材像

我が国の持続的発展を遂げるため、大学の国際化を推進し、世界を見据えたグローバルな修士課程学生の育成は極めて重要である。本プログラムは、我が国の工科大学院の修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、学生の進路希望に応じて、フレキシブルかつ新たな国際履修モデルを提案することにより、修業年限、就職活動、進学準備に影響を与えることなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者の育成を実現する。



#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

本プログラムの実施は、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かして、UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、共同プログラム内の大学間の単位の相互認定を実現すると共に、成績管理、学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

##### ○ 短期交流コース

派遣: 2ヶ月間派遣し、UCLA、ミシガン大学の各専門分野の教授陣および名古屋大学派遣教員による特別集中講義および英語力養成授業を受け、相互認定可能な6単位を取得する。

受入: 2ヶ月間受入れ、取得できる6単位を相互的に認定する。工学研究科の各専門分野の研究第一線で活躍している研究者を結集し、UCLA、ミシガン大学からの招聘教員を加え、英語による大学院特別集中講義を実施する。

##### ○ 中期交流コース

派遣: 6ヶ月間UCLA、ミシガン大学に派遣し、相互認定可能な10単位を取得する。両校の教授陣による授業、共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。

受入: 6ヶ月間受入れ、セミナー単位の取得や名古屋大学の教授陣による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。

##### ○ 長期交流コース

派遣: 12ヶ月間UCLA、ミシガン大学に派遣し、必要な4つのセミナー単位の取得、研究施設の共同利用、キャリアパス支援など、米国の特色ある充実した研究支援を受ける。共同修士論文審査会を開催し、研究指導および単位の認定を行う。

受入: 12ヶ月間受入れ、セミナー単位の取得や日米両校の教授陣による研究指導、研究施設の共同利用、キャリアパス支援など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。共同修士論文審査会を開催し、研究指導および単位の認定を行う。



〈名古屋大学での授業風景〉

#### ■ 教育内容の可視化・成果の普及

##### ○ 遠隔国際教育の充実

本プログラムでは、より多くの修士課程学生が大学教育の国際化の魅力を感じ体験できるため、ICTを駆使した遠隔国際教育を充実することにより、実施大学の学生だけではなく、他大学の学生も本プログラムへの参加を可能にする。

##### ○ プログラムの成果の公開

本プログラムの成果についても積極的に公開する。特にプログラムの活動状況や随時行われる海外の著名な講師の講義・講演内容について、随時ビデオライブラリーなどを作成し、内外から広くウェブアクセスできるようにする。

#### ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **派遣:** 留学中の日本人学生が学業に専念できるように、バックアップを受ける現地サポート体制をプログラムを通して確立する。日本側からも留学に必要な情報提供やインターネットを通じた相談窓口をさらに充実させ、万全な体制を整備する。

○ **受入:** 指導教員の配置、教育支援員・TA等の配置、履修指導、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、学内各種資料の翻訳、宿舎の借り上げ、就職支援などの支援体制を整備する。

#### ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生の派遣:** 5年間継続で本プログラムを推進することにより、短期・中期・長期交流コース及び定期ワークショップを実施することで、計233名の日本人学生を派遣する。

○ **外国人留学生の受入れ:** 5年間継続で本プログラムを推進することにより、短期・中期・長期交流コース及び定期ワークショップを実施することで、計146名の外国人留学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	25	46	47	55	60
学生の受入	0	29	32	40	45

## 【構想の名称】(タイプB-I)

### 修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

#### 【プログラムの目的・養成する人材像】

本プログラムの目的は、我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現することである。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

#### 【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。毎年40名程度の大学院修士課程の学生交換留学を推進すると共に、短期から中期の教員派遣・招聘を行い、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを新たに構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムでは、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の長をを活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、共同プログラム内の大学間の単位の相互認定を実現すると共に、成績管理、学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

### ○ 短期交流コース(1ヶ月～3ヶ月)

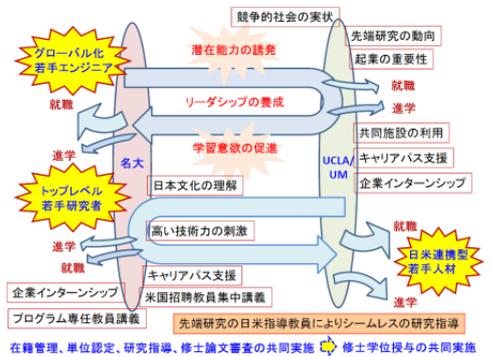
派遣: UCLA、ミシガン大学の教授陣および名古屋大学派遣教員による特別集中講義および英語力養成授業を受け、相互認定可能な6単位を取得する。  
受入: 取得できる6単位を相互的に認定する。UCLA、ミシガン大学を中心とした国内外からの工学研究科の第一線で活躍している教員・研究員を招いて、英語による集中講義を実施する。同時に日米の学生による共同研究を実施する。

### ○ 中期交流コース(3ヶ月～6ヶ月)

派遣: UCLA、ミシガン大学に学生を派遣し、最大10単位を取得する。両校の教授陣による授業、共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。  
受入: セミナー単位の取得や名古屋大学の教授陣による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。

### ○ 長期交流コース(9ヶ月～12ヶ月)

派遣・受入: 派遣大学において、セミナー単位の取得、研究施設の共同利用、キャリアパス支援など、各大学の特色ある充実した研究支援を受ける。共同修士論文審査会を開催し、研究指導および単位の認定を行う。



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成23年度

UCLA、ミシガン大学において、研究発表、大学・研究所訪問からなる学生ワークショップ(名大生37名、アメリカ学生・教員合計約100名)を開催した。また、合計12人の教員派遣・招聘を行い、本プログラムで目指す国際教育プログラムの構築に関する意見交換を行った。

### ○ 平成24年度

夏季学生交換留学に当たり、「震災復興とエネルギー」をテーマとした特別プログラムを実施する。国内外の著名な研究者による集中講義と研究教育を行う。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生の派遣:** 5年間の短期・中期・長期交流コース及び定期ワークショップを通じて、計245名の名古屋大学学生を派遣する。

○ **外国人留学生の受入れ:** 計146名のアメリカの大学からの学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	46	47	55	60
学生の受入	0	29	32	40	45

注) H23は実績、H24以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **派遣:** 留学中の日本人学生が学業に専念できるように、バックアップを受ける現地サポート体制をプログラムを通して確立する。日本側からも留学に必要な情報提供やインターネットを通じた相談窓口をさらに充実させ、万全の体制を整備する。

○ **受入:** 指導教員の配置、教育支援員・TA等の配置、履修指導、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、学内各種資料の翻訳、宿舍の借り上げ、就職支援などの支援体制を整備する。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 遠隔国際教育の充実

本プログラムでは、より多くの修士課程学生が大学教育の国際化の魅力を感じ体験できるため、ICTを駆使した遠隔国際教育を充実することにより、実施大学の学生だけではなく、他大学の学生も本プログラムへの参加を可能にする。

### ○ プログラムの成果の公開

本プログラムの成果についても積極的に公開する。特にプログラムの活動状況や随時行われる海外の著名な講師の講義・講演内容について、随時ビデオライブラリーなどを作成し、内外から広くウェブアクセスできるようにする。

Student Workshop at UCLA (2012.3.8-9)



# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることがなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。大学院修士課程の学生交換留学を推進し、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムでは、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、共同プログラム内の大学間の単位の相互認定を実現すると共に、成績管理、学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

### ○ 短期(夏季)交流コース(2ヶ月~3ヶ月)

**派遣:** J1ビザを取得し訪問研究者としてアメリカの大学に滞在し、研究インターンシップを行う。名古屋大学から2単位を付与する。

**受入:** アメリカの大学院生を受け入れ、研究インターンシップおよび関連授業を行う。国内外から教員・研究員を招いて集中講義を実施すると同時に、日米の学生による共同研究を実施する。相互認定可能な3単位を付与する。

### ○ 中長期交流コース(6ヶ月~12ヶ月)

**派遣:** UCLA、ミシガン大学に学生を派遣し、論文発表につながる本格的な研究を行う。共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。名古屋大学から4単位を付与する。

**受入:** 名古屋大教員による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。相互認定可能な3単位を付与する。

〈短期コースでミシガン大学に派遣された名古屋大学大学院生たち〉



(三菱電気自動車 i-Mievの試乗)



(Lexus LFAIに関する講義)

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成24年度

**派遣:** 夏季休暇中に16名の大学院工学研究科学生を2ヶ月間ミシガン大学に派遣し、名大での研究に関連する研究インターンシップを行った。また、合計4名の中長期プログラム参加者を派遣した。

**受入:** ミシガン大学から10名の学生を2ヶ月間受け入れ、「エネルギー貯蔵と次世代自動車」をテーマとしたプログラムを実施した。大学、研究所、企業研究者による集中講義、関連する研究インターンシップ、三菱自動車とトヨタの企業訪問を行った。

**ワークショップ:** 学生交流促進とプログラム発展・大学連携強化のために、学生ワークショップをミシガン大学で(名大生30名、ミシガン教員、学生100名程度)、教員ワークショップを名古屋大学で(ミシガン大教員9名、名大教員、学生50人程度)開催した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ **日本人学生の派遣:** 5年間の交流コース及び定期ワークショップを通じて、計200名程度の名古屋大学大学院工学研究科学生を派遣する。

○ **外国人留学生の受入れ:** 短期交流コースを中心として、計70名程度の学生を受け入れる。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ **派遣:** 派遣学生が学業に専念できるように、受入大学でコーディネータ教員から支援を受ける。日本で事前に英語個別指導による語学力強化を図る。

○ **受入:** 指導教員の配置、TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舍の借り上げ、日本語授業などを通して支援する。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ プログラムの成果の公開

学生交流、セミナーなどのプログラム活動状況を随時ホームページで公開し、内外から広くウェブアクセスできるようにする。HP: <http://www.juacep.engg.nagoya-u.ac.jp>

### ○ SNSを利用したネットワーキング

異なる大学間、また参加中および参加した学生のネットワークを継続させるために、プログラム期間中および終了後もFacebookなどのSNSを利用した自発的コミュニケーションを促す。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	50	14	32	22
学生の受入	0	10	22	17	37

注) H23・H24は実績、H25以降は計画。

〈短期コースで名大に受け入れたミシガン大学院生〉



# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることがなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。大学院修士課程の学生交換留学を推進し、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムでは、日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、共同プログラム内の大学間の単位の相互認定を実現すると共に、成績管理、学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムの実施を通して日米両方の各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点形成する。

○ 短期(夏季)交流コース(2ヶ月～3ヶ月)

派遣: J1ビザを取得し訪問研究者としてアメリカの大学に滞在し、研究インターンシップを行う。名古屋大学から4単位を付与する。

受入: アメリカの大学院生を受け入れ、研究インターンシップ、関連授業の聴講、自動車工場見学等を行う。相互認定可能な3単位を付与する。

○ 中長期交流コース(6ヶ月～12ヶ月)

派遣: UCLA、ミシガン大学に学生を派遣し、論文等成果発表につながる本格的な研究を行う。共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。名古屋大学から4単位を付与する。

受入: 名古屋大教員による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の特色ある充実した研究支援を受ける。相互認定可能な3単位を付与する。

〈UCLAに派遣された名古屋大学大学院生の研究室での様子〉



〈名古屋大学で小型エンジンの分解・組立実習を行うアメリカの大学院生〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

○ 平成25年度

派遣: 夏季休暇中に16名の大学院工学研究科学生を2ヶ月間ミシガン大学・UCLAに派遣し、名大での研究に関連する研究インターンシップを行った。また、前年度からの派遣学生と本年度から派遣された学生合わせて合計10名を中長期コースで派遣した。

受入: ミシガン大学・UCLAから18名の学生を2ヶ月間受け入れ、研究インターンシップ、自動車工学および生産工学に関連する講義の聴講、小型エンジンの分解・組立実習を行った。

ワークショップ: 学生交流促進とプログラム発展・大学連携強化のために、学生ワークショップをミシガン大学とUCLAで行った(名大生34名、米国教員、学生約100名がそれぞれの大学で参加)。また教員ワークショップを名古屋大学で開催した(ミシガン大教員6名、名大教員・学生約50人が参加)。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣: 5年間の交流コース及び定期ワークショップを通じて、計200名程度の名古屋大学大学院工学研究科学生を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ: 短期交流コースを中心として、計70名程度の学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	50	50	32	22
学生の受入	0	10	18	17	37

注) H23-H25は実績、H26以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 派遣: 派遣学生が学業に専念できるように、受入大学でコーディネータ教員から支援を受ける。日本で事前に英語指導による語学力強化を図る。

○ 受入: 指導教員の配置、TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舍の借り上げ、日本語授業などを通して支援する。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ プログラムの成果の公開

学生交流、セミナーなどのプログラム活動状況を随時ホームページで公開し、ウェブアクセスできるようにする。HP: <http://www.juacep.engg.nagoya-u.ac.jp>

〈ミシガン大学に滞在中の名古屋大学生と前年度本プログラムで来学したミシガン大学生による懇親会〉



# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることがなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。大学院修士課程の学生交換留学を推進し、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の長をを活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、プログラム内の大学間の単位相互認定および成績管理・学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムを通して日米各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

### ○ 短期(夏季)交流コース(2ヶ月～3ヶ月)

派遣:J1(訪問研究者)ビザを取得しアメリカの大学で研究インターンシップを行う。名古屋大学から4単位を付与する。

受入:UCLAおよびミシガン大学の大学院生を受け入れ、研究インターンシップ、関連講義の聴講、自動車工場見学等を行う。名古屋大学から2～3単位を付与する。この単位は、ミシガン大学大学院修士課程学生に対しては、課程修了に必要な単位として互換される。

### ○ 中長期交流コース(6ヶ月～12ヶ月)

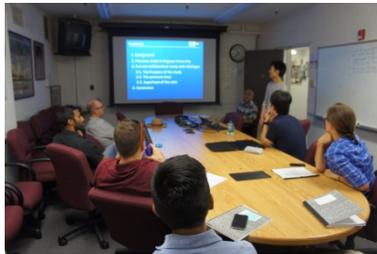
派遣:アメリカ大学に学生を派遣し、論文等成果発表につながる本格的な研究を行う。共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。名古屋大学から2～6単位を付与する。

受入:名古屋大教員による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の充実した研究支援を受ける。短期コースと同様に単位を付与する。



〈短・中期受入れ学生たち〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



〈派遣先のミシガン大学の研究室で発表する名古屋大学大学院生〉

### ○ 平成26年度

派遣:短期コースで(夏季休暇中)12名、中期コース(8月から翌年1月)で9名、長期コース(8月から翌年7月)で1名の大学院工学研究科学生をミシガン大学・UCLAに派遣し、研究インターンシップを行った。

受入:ミシガン大学・UCLAから17名の学生を2ヶ月間、2名の学生を6か月間受け入れ、研究インターンシップ、生産工学に関連する講義の聴講、小型エンジンの分解・組立実習、自動車工場見学、日本語講義を行った。

教員招聘とワークショップ:プログラム発展と大学間連携強化のために、ミシガン大学から教授を3か月間招聘した。また、ミシガン大学から5名、UCLAから3名の教員を招聘し、教員ワークショップを名古屋大学で開催した(名大からは教員・学生等約50人が参加)。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

5年間の交流コース及びワークショップを通じて、200名程度の名古屋大学大学院工学研究科学生を派遣する。

### ○ 外国人留学生の受入れ

短期交流コースを中心として、計70名程度の学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	50	51	22	22
学生の受入	0	10	18	19	37

注)H23～H26は実績、H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 派遣

派遣学生が学業に専念できるように、受入大学でコーディネータ教員から支援を受ける。日本で事前に英語指導による語学力強化を図る。

### ○ 受入

指導教員の配置、TA等の配置、学内外での諸手続き支援、カウンセリング、宿舍の借り上げ、日本語授業などを通して支援する。



〈ミシガン大学教員と名古屋大学大学院生との議論〉

〈研究室見学ツアー〉



## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

### ○ プロジェクトHPを通しての情報発信

プログラム活動状況を随時プログラムホームページで公開する。HP: <http://www.juacep.engg.nagoya-u.ac.jp>

### ○ 研究成果発表

得られた研究成果を国際会議や学術論文発表することで、プログラムの持続的発展を促す。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることがなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。大学院修士課程の学生交換留学を推進し、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、プログラム内の大学間の単位相互認定および成績管理・学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムを通して日米各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

### ○ 短期(夏季)交流コース(2ヶ月~3ヶ月)

派遣:J1(訪問研究者)ビザを取得しアメリカの大学で研究インターンシップを行う。名古屋大学から4単位を付与する。

受入:UCLAおよびミシガン大学の大学院生を受け入れ、研究インターンシップ、関連講義の聴講、自動車工場見学等を行う。名古屋大学から2~3単位を付与する。この単位は、ミシガン大学大学院修士課程学生に対しては、課程修了に必要な単位として互換される。

### ○ 中長期交流コース(6ヶ月~12ヶ月)

派遣:アメリカ大学に学生を派遣し、論文等成果発表につながる本格的な研究を行う。共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。名古屋大学から2~6単位を付与する。

受入:名古屋大教員による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の充実した研究支援を受ける。短期コースと同様に3単位を付与する。



〈ミシガン大学生と共に〉



〈受入オリエンテーション〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈ものづくり実習と研究発表ワークショップ〉



### ○ 平成27年度

派遣:短期コースで(夏季休暇中)5名、中期コース(8月から翌年1月)で11名の大学院工学研究科学生をミシガン大学・UCLAに派遣し、研究インターンシップや授業の聴講を行った。

受入:ミシガン大学・UCLAから過去最高の23名の学生を約3ヶ月間受け入れ、研究インターンシップ、生産工学に関連する講義の聴講、小型エンジンの分解・組立実習、自動車工場見学、日本語講義を行った。

教員招聘とプログラムの継続:プログラム発展と大学間連携強化のために、ミシガン大学から教授を1か月間招聘した。また名古屋大学教員がミシガン大学、UCLAを訪問し、補助金終了後のH28年度以降の本プログラムの継続で合意した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

5年間の交流コース及びワークショップを通じて、ほぼ当初予定(200名)通りの計176名の大学院学生を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

短中期コースを通じて、当初予定(70名)通りの計70名の学生を受け入れた。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 派遣

派遣学生が学業に専念できるように、受入大学でコーディネータ教員から様々な面での支援を受けている。事前に英語指導による語学力強化を行っている。

### ○ 受入

指導教員の配置、TA等の配置、宿舍の借り上げ、日本語授業などを通して支援している。また、現地説明会やオンライン説明会を行い、プログラムを宣伝している。



〈UCLAでのプログラム説明会〉

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

### ○ プロジェクトHPを通しての情報発信

プログラム活動状況を随時プログラムホームページで公開している。HP: <http://www.juacep.engg.nagoya-u.ac.jp>

### ○ 研究成果発表

得られた研究成果を国際会議や学術論文発表することで、プログラムの持続的発展を図っている。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	50	51	22	16
学生の受入	0	10	18	19	23